

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2021.9. VOL.46

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

過去1年で採択された事業について

昨年度末に文部科学省において、今般の新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、感染症に関する高度な知識を身につけた医療人材の養成を行うための経費支援が大学改革推進等補助金として公募され、本学医学部研究科を中心として薬学研究科・看護学研究科と協働で申請した「名古屋市立大学 感染症医療人材養成事業」が選定されました。本事業には医学部を有する全国78校の大学が申請し、38校の事業が選定されました。

本学では、人材が不足している救急・集中治療領域においてITの積極的活用とシミュレーション教育を推進し、国内外の機関との連携による教育システムを構築し、高い能力を備えたグローバルな視野を持つ医療人の育成を行うこと、併せて医・薬・看護学の医療系3学部の教育を充実し、高度な感染症の知識を持った医療人を養成してまいります。

また、同時期に公募された大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)にも本学から人間文化研究科を中心に申請し、選定されています。

さらに、令和3年6月に公立大学で唯一、本学が文部科学省の公募事業である先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)に採択されました。

本事業では、医療と研究基盤の両方に精通した技術人材(リエゾン技術者)を養成し、医療の質を一層高める高度臨床研究を推進する仕組みを構築します。本事業で養成するリエゾン技術者が臨床研究と基礎研究を有機的に連結することで本学の強みを活かした研究支援モデルを確立します。これを他大学や医療機関に展開し、共用機器の利用を促進し、高度な臨床研究の支援を行います。

令和3年度は、リエゾン技術者・高度研究基盤技術者の育成プログラムを立ち上げ、リエゾン技術者のキャリア・アップにつなげるとともに、遠隔の附属病院・関連病院の臨床研究効率化に向けたシステム構築に取り組みます。

選定された事業計画は5年計画ですが、事業終了後の持続的な発展も視野に入れ取組みます。

文責：医学・病院管理部教育研究課

採択年月	機 関	事業・プログラム名
2020年1月	文部科学省	国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム
2020年7月	文部科学省	先端研究設備整備補助金 研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備
2021年3月	文部科学省	大学改革推進等補助金 感染症医療人材養成事業
2021年3月	文部科学省	大学改革推進等補助金 デジタル活用教育高度化事業
2021年6月	文部科学省	先端研究基盤共用促進事業 コアファシリティ構築支援プログラム
2021年9月	科学技術 振興機構(JST)	次世代研究者挑戦的研究プログラム

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

研究

総合研修センターの取り組みについて

総合研修センターの仕事には様々なものがありますが、①全国の医学生に当院の研修プログラムを紹介するリクルート活動②初期研修医の採用試験の催行③初期研修医の各病院や各診療科での研修のサポート④研修終了後の専門研修先への就職活動のバックアップなどがおもな活動です。

そこで私が名市大病院の総合研修センター長に就任してからの活動内容を紹介したいと思います。

4月1日からの1週間、名市大病院に入職した初期研修医に対するオリエンテーションが行われました。研修センターの先生方により、保険医療のシステム、医療書類の書き方、救急当直の実際、学会発表のイロハなどのレクチャーに加え、諸検査・血管ルート確保の仕方のシミュレーションや外科手技のハンズオンセミナーが行われました。その最後に若手医師とベテラン医師による特別シンポジウムが二部構成で行われ、現地参加した名市大病院研修医約40名の他に、東部・西部医療センターや蒲郡市民病院などから約60名がWEB参加しました。基調講演をされた郡健二郎理事長から若き研修医たちは「名市大病院で研修することをご家族に誇りに思っただけのよう頑張ってください。名古屋市を中心とした東海地方の医療を守るのはあなたたちです。」と激励のメッセージをいただきました。今、名市大の研修医たちはコロナ禍で上級医の指導の下、大規模会場でのワクチン接種業務に貢献しています。

感染拡大防止で新規研修医のリクルート活動を対面で行うことができないため、昨年12月以降WEB開催を毎月行ってきました。最大のイベントは6月14日に開催された、名市大病院31診療科の臨床研修委員の先生とWEB参加の学生・研修医とのQ&Aコーナーでした。多忙な会議と手術の合間を縫ってお越しになった間瀬光人病院長は万雷の拍手で迎えられ、マイクを通して全国の参加者に名市大病院の責務と使命を熱く語られました。

その声が届いたのか、7月22日と8月12日の来年度研修医の採用試験には例年以上の受験者を迎えることができました。もっとも重要な面接には、研修センターの医師だけでなく、看護部、薬剤部、中央放射線部、中央臨床検査部の皆さんの協力をいただきました。名市大病院が総出で良い研修医を育てようという思いが伝わり、医師国家試験合格の暁に若い力を迎え入れられることを祈念します。

文責：総合研修センター長 林 祐太郎



豊川市民病院と臨床研究の実施に関する連携協定を締結

2021年5月27日(木)に郡健二郎 理事長と三島晃 豊川市民病院事業管理者によって、本学と豊川市民病院の「特定臨床研究の実施に関する相互の協力・支援に関する協定」の締結式が行われました。

本学と豊川市は、令和2年度に「名古屋市立大学と豊川市における連携に関する協定」を締結しており、これまで医師の人事交流をはじめとする連携を行ってきました。

今回の協定締結によって、本院と豊川市民病院が協力して臨床研究実施セミナー、臨床研究ワークショップ等により両院で活躍する臨床研究者の育成を目指します。

また、既に本院と協定を締結している名古屋市立大学医学部附属東部・西部医療センター、蒲郡市民病院、いなべ総合病院に、今回豊川市民病院を加えた6施設が一丸となって今後積極的に臨床研究に取り組み、医学の発展に向けた新たな知見を世界に向け発信して参ります。



文責：臨床研究戦略部

02 研究&教育

Current topics in research and education

教 育

学校推薦型選抜入学者に対しMDPhDコースの必須化が決定!

学校推薦型選抜入試（中部圏活躍型、名古屋市高大接続型）のアドミッションポリシーに沿った卒前・卒後教育の充実を目的とし、本制度による入学者 30 名に対し、専門教育科目・選択制コース（MD-PhD コース）の選択が 1 年次から必須となりました（注：卒業要件ではありません）。

本制度の入学者は、2 年間の初期研修を行った後、卒後 6 年目までに必ず名古屋市立大学又は大学病院に所属し、医学研究および臨床の場で中心となって本学をリーダーしていくことが期待されています。そのため、入学後から基礎&臨床の講座が連携・協力し、学生の能力を最大限に引き出すため、基礎自主研修が開始するまでの前期プログラムと基礎自主研修後の後期プログラムからなる育成システムを医学部では始動させました。

前期プログラムでは、円滑な学生生活の導入と初歩の研究指導を行います。また後期プログラムでは、学生の卒後動向の意思を尊重しつつ、基礎自主研修を終了した時期に、基礎医学 1 講座および臨床医学 1 講座（複数講座も可とする）の責任講座を改めて決定し、その責任講座は、リサーチマインドの育成に最大限に努めるプログラムとなっています。

なお、2008 年に創設した MDPhD コースは各学年平均 6 名の学生が選択し、早期から医学研究者として順調に育っています。一般入試によるモチベーションの高い学生も自由に選択することが可能な制度となっています。

文責：副研究科長 飛田 秀樹

エコチル調査愛知ユニットセンターにおける先端機器の活用について

環境省の大規模出生コホート「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」開始から早 10 年が過ぎ、現在参加児は小学 4 年～1 年生になりました。小学 2 年時には、多くの児にとって初めての対面調査を実施し、質問紙調査では明らかにすることのできないデータの取得や、血液・尿・便などの生体試料の採取を行っています。これらの生体試料は、環境労働衛生学にて管理・保存をしています。

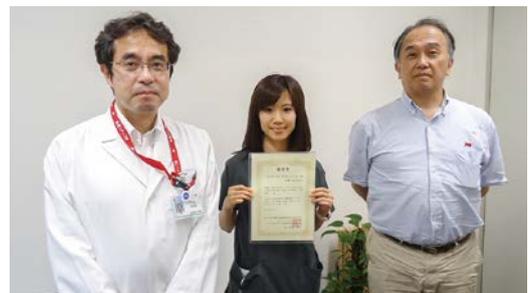
ヒトが一生に渡って曝される環境曝露の総量を示す「エクスポゾム」という概念が近年注目されており、今後エコチル調査にて化学物質の健康影響を評価する上で環境因子の網羅的な測定が必要になります。環境労働衛生学では、別途予算を確保し、高速液体クロマトグラフィータンデム型質量分析計や高分解能質量分析計、ガスクロマトグラフィー高分解能質量分析計といった先端機器を導入してきました。エコチル調査の検体を用いた曝露化学物質の網羅的分析を今後可能にする、方法の開発に現在取り組んでいるところです。

文責：環境労働衛生学 准教授 伊藤 由起

第119回日本呼吸器学会東海地方学会で研修医アワードを受賞しました

2021 年 5 月に開催された第 119 回日本呼吸器学会東海地方会において、2 年目研修医加藤あかね先生が発表した演題「悪性黒色腫に対する BRAF/MEK 阻害薬併用療法中に発症した頸部リンパ節結核の 1 例」が優秀と認められ、研修医アワードを受賞しました。本演題は過去に報告のない症例発表だったことに加え、Web 開催のため音声付きの発表スライドをあらかじめ登録する必要があり、初めての学会発表としては準備に苦労されましたが、当日は座長からの質問にも落ち着いて対応していました。初期研修では担当医として臨床経験を積むことや院内の勉強会・症例検討会に出席して医学知識を得るだけでなく、自ら症例に関する論文の検索を行って考察し、学会という場で発表できるようになることも重要な課題です。名古屋市立大学病院では臨床面だけでなく学会発表などのアカデミックな面でも研修医のサポートを積極的に行っています。

文責：呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授 伊藤 穰



新任教授紹介

視覚科学 安川 力 教授

2021年5月1日付で視覚科学(眼科)教授を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は大阪出身、京都大学医学部ではラグビー部所属、1993年卒業後、同医学部附属病院眼科で研修を行い、大阪の北野病院勤務を経て、同大学大学院でドラッグデリバリーシステム(DDS)の研究で学位を取得しました。その後、「DDSの医工学技術を用いて成人失明の主要原因である加齢黄斑変性の動物モデルを作る」という研究テーマでドイツのライプチヒ大学へ留学、帰国後、倉敷中央病院勤務の後、2005年に本学に着任いたしました。

私の研究領域は、留学以来ライフワークとなっている加齢黄斑変性の病態解明の他、Clinician-Scientistの利点を生かして基礎と臨床を融合し、網膜疾患の難治症例に対する新しい治療法の開発を手がけてきました。本講座も、網膜疾患を中心に白内障、緑内障、その他の眼科疾患の診療に取り組んでいます。

21世紀に入り眼科医療が熱いです。「眼球は光を感じる臓器」であるがゆえ、光を用いた画像診断、レーザー治療が進化し、その他、手術、分子標的薬などの薬物治療の進歩も目覚ましく治療成績は向上しています。一方、各分野の専門性が増し、独学で全てを習得する事が困難となっているため、当教室では若手教育とチームワークに最重点をおき、臨床で何が求められているかを考える力を養い、個々人の得意分野を伸ばし、One Teamで総合力を高めていきます。ラグビーで培ったOne for All, All for Oneの精神を胸に医療に臨みます。



安川 力 教授

新任教授紹介

循環器内科学 瀬尾 由広 教授

2021年6月1日付けで循環器内科学分野の教授を拝命いたしました。

私は1992年に筑波大学を卒業し、2004年から2019年まで同大学の集中治療部および循環器内科の講師、准教授として在籍し、2019年より名古屋市立大学・心臓腎高血圧内科学教室に准教授として赴任いたしました。現在は心不全、弁膜症について、主に超音波を用いた病態診断学を専門としています。これまで、重症心不全に対するペースメーカ治療(心臓再同期療法)や、カテーテルによる弁膜症治療であるTAVIなど、その時代の最先端を行く治療法に関して国内におけるオピニオンリーダーとして国内外のトップランナーの専門家と幅広い交流を持ち、経験と見識を深めてまいりました。また、複数の日本循環器学会ガイドライン班員を務めさせていただき、国内の循環器診療の発展に寄与させていただいております。このような経験のもと、先進的な医療の導入を図り、名古屋市立大学循環器内科学教室が名古屋において、そして国内において注目される難治性心疾患診療の要となるよう貢献していきたいと考えております。

一方、循環器学が如何に超高齢社会に貢献していくかということも大きなテーマの一つです。ご高齢者では慢性的な心不全の方々が増加の一途を辿っております。さらに、心臓以外にも複数の疾患を有する非常に複雑な病態であることが特徴です。当教室が先頭に立ち、ソーシャルイノベーションとして名古屋市における慢性心不全管理モデルを作り上げることに、精力的に取り組んでいきたいと考えております。



瀬尾 由広 教授

03 時の人 People in the news

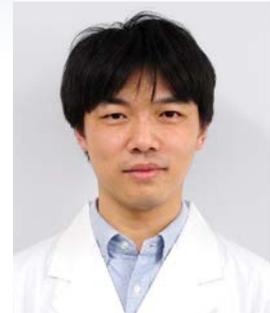
新任教授紹介

ウイルス学分野 奥野 友介 教授

2021年6月1日付でウイルス学分野教授を拝命しました奥野友介です。謹んでご挨拶を申し上げます。

私は名古屋大学に入学した2000年から、様々な研究分野(発生学、酸化ストレス、不整脈、免疫学、遺伝学、ウイルス学)を学んできました。新しい病気を発見して自分の名前を冠したいというやや邪な動機から研究を始めましたが、現在は、日本に好発する病気(川崎病、慢性活動性EBウイルス感染症)、非常に稀な病気(小児がん、遺伝性血液疾患)、あるいは複雑な関係性で起こる病気(ウイルスによる発がん)に取り組んでいます。技術としては、次世代シーケンスとそれに基づく大規模な情報解析の力を活用しています。これらによる発見の加速は凄まじいもので、私が研究を始めた頃には、たった1人の患者から新種の白血病を発見して、しかもその患者を治療して救うという速さの研究は想像できませんでした。持てる技術を駆使して、名古屋市立大学への貢献を通じて、科学に(できればコロナ禍の収束にも)貢献するため、努力する所存です。

私は学部時代に幸運にも4つの研究室で学ぶことができましたが、早い時期に研究を学び、いくつか論文を書いたことが、その後の出会いや、医師・研究者のキャリアにおいて、よい方向に働いたと信じています。学生時代は、それ以降と比べれば時間に余裕があり、興味のあることに自由に取り組めるよい時期です。研究室は誰に対しても開いていますので、ぜひ見学にいらしてください。



奥野 友介 教授

新任教授紹介

救命救急医療学分野 東部医療センター 松嶋 麻子 教授

私は2011年に名市大を卒業した後、大阪大学の特殊救急部(現 高度救命救急センター)で救命救急医療を学び、2015年9月に先進急性期医療学分野の教授(診療担当)として名市大へ参りました。この度、2021年8月1日より東部医療センターに新設された救命救急医療学分野を担うことになり、身の引き締まる思いです。

救命救急医療では、事前に分析したデータをもとに限られた時間と情報・条件の中で最善策を見出し、実行する判断力と決断力が必要です。私はその判断力と決断力を養うために重症の救急患者の診療を専門に研修して参りました。今後も地域のニーズに合わせて重症から軽症まですべての救急患者を受け入れ、最短で最善の治療を目指して自己研鑽と後進の育成に努めます。

また、私は名市大における医療系サークルMeLSCやドクターエイドに教員として関わり、学生に医療従事者としての心構えや様々な状況の人々を理解しながら思いやる気持ちを伝えてきました。彼らが卒業後、学生時代に得た経験を活かして社会に貢献する人材になることを願い、今後も活動を続けて参ります。

これまで、私自身は救命救急の医師として、寝食を忘れて重症患者の傍に寄り添い、多くを学んで参りました。一方、家族や友人との時間を顧みず、医師としての仕事に没頭することは、今後の時代にはそぐわないとも考えています。「ワーク・ライフ・バランス」「働き方改革」という言葉で人生の充実を求める時代、業務の整理と効率化を図り、患者とともに自分や自分の家族を大切にしたいと考えています。



松嶋 麻子 教授

手術支援ロボット「ROSA Kneeシステム」が導入されました

名古屋市立大学病院に本年5月より米国ジンマー・バイオメット社の整形外科用手術支援ロボット「ROSA Kneeシステム」が導入されました(全国で5施設目(名古屋市の病院では1施設目)の導入)。ROSA Kneeは既に世界中で200台以上が導入されており、良好な成績が報告されています。ROSA Kneeの使用により、これまで術者の経験にゆだねられていた骨切りやインプラントの設置を、ナビゲーション機能を備えたロボットが補助をする事により、0.5°、0.5mm単位で調整可能となりました。それにより精度の高い骨切り、インプラントの設置を、低侵襲で合併症リスクなく出来るようになり、患者様の早期の回復、早期社会復帰が可能となりました。

更に、ROSA Kneeではコンピュータ上で手術前に患者様1人1人に個別にその方の理想の人工膝関節をプランニングし、その術前計画を手術中に忠実に再現する事が可能です。患者様一人一人に合った人工膝関節を行う事により、術後の痛みの改善、違和感のない膝の実現が可能となり、患者様の生活の質(QOL)の改善が可能となります。

既に当科では人工膝関節は手術待ちが4ヶ月を超える状況であります。毎月10名以上の患者様の治療を行い、皆様に大変満足頂いております。ROSA Kneeの導入により、皆様にこれまで以上に良い治療を提供させて頂けるよう努力して参ります。

文責：整形外科 野崎 正浩



「無痛分娩センター」で、安全で痛みの少ない「硬膜外分娩」を!

名古屋市立大学病院の本院に「無痛分娩センター」が設置されて、まもなく3年となります。当センターでは「硬膜外(こうまくがい)分娩」と呼ばれる痛みの少ない出産(いわゆる無痛分娩)を提供しています。硬膜外麻酔という背中からの注射による下半身麻酔で、出産の痛みを和らげます。全身麻酔とは違って意識があるので、出産の過程を楽しむことも出来ます。痛みが心配な妊婦さんに好評で、希望される方は年々増加しています(表)。

一方で「お産は命がけ」という言葉もある通り、出産に危険はつきものです。特に最近は高齢や持病のあるハイリスク妊娠が増え、更に硬膜外分娩では麻酔の危険も加わります。残念ながら近年、硬膜外分娩での医療事故が社会問題になりました。その背景には、わが国では「チームによる硬膜外分娩」が未成熟であることがあります。安全で痛みの少ない硬膜外分娩の実現は、産科医のみ、麻酔科医のみでは難しく、多職種の連携が必要です。

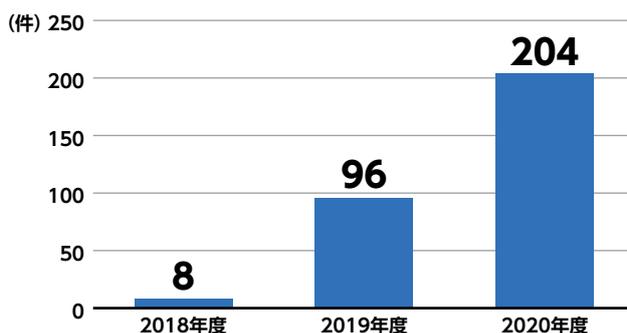
当センターは、チーム医療を実践する医療従事者を育てることに注力しており、産科医・助産看護スタッフ・麻酔科医・小児科医・薬剤師らが加わった「硬膜外分娩チーム」を確立させました。このようなチーム医療による硬膜外分娩を実践している大学病院は、現在のところ東海三県では当センターのみです。

名市大病院無痛分娩センターは、これからも硬膜外分娩を行う施設のモデルとなり続けるよう進化を続けてまいります。

文責：無痛分娩センター・麻酔科 田中 基

硬膜外分娩の件数

(名古屋市立大学病院無痛分娩センター)



コロナ禍の学生生活



医学部 6年生 文堂 生深

現医学部6年生は、1年半の病院実習期間のうち、ほぼ全てをコロナ禍の中過ごしてきました。1ヶ月あまりの実習中止期間もありましたが、先生方のご助力と学生の感染対策に対する意思のもと、1人も新型コロナウイルス感染者を出さず、今年10月をもって病院実習を終える予定となります。学外病院実習が中止になったり例年通りの回診ができなかったりと、縛りのある中ではありましたが、大変多くのことを学び、成長となる病院実習となりました。我々学生一同を支え続けてくださった先生方に、心より御礼申し上げます。



医学部 5年生 加藤 千晶

5年生として思うことは、まず、難しい情勢にも関わらず実習を受け入れてくださる病院の方々への感謝です。勿論、自分を媒介にして患者さんが感染しないだろうかという底知れない不安は尽きません。けれど、患者さんを診る難しさや繊細で大胆な手術の根気強さは、画面越しではわからなかったと思います。医師として誠実であり続ける先生方のお仕事振りに敬服すると同時に、自分の将来像が明確になり、精進せねばと思うばかりです。恩を仇で返さぬよう今後も感染対策を充分に行い、実習に取り組もうと思います。



医学部 4年生 大山 聡太

コロナ禍においてオンライン講義となり、自宅での受講が中心となっています。授業の形態がオンラインとなったため、先生や友人との距離を感じる反面、授業後の個人の質問をオンラインツールで気軽に共有できる利点もありました。

また、同じ道を志す仲間と同じ場所で切磋琢磨し勉学に取り組むことが困難な状況となり、モチベーションの維持が難しく感じる時もありますが、自分の弱点を知り、理想の医師像に近づく一歩とします。



医学部 3年生 桐原 聖子

新型コロナウイルス感染症流行初期の2020年4月、私達は2年生に進級し、Zoomによるオンライン授業や、Zoomと対面の選択式ハイブリッド授業が行われました。

例年とは授業形態や実習も変わり、戸惑うことや不安も多くありました。しかし、先生方や先輩方から多くのアドバイスをいただき、友人達とは互いに支え合いました。

授業が円滑に進むよう多くの方が迅速に対応していただき、充実した学生生活を過ごすことができ、本当に感謝しております。



医学部 2年生 古幡 保之

私たち2年生は新型コロナの感染拡大の中に入学をした学年であります。1年次の専門科目は対面講義で実施されましたが、教養科目はほぼオンラインでの実施となりました。2年次の現在では実習は対面で実施されていますが、講義については対面とオンラインを併用した学生自身が授業方法を選択する「ハイブリッド型講義」で実施されています。友人たちと会う機会が減ってはいますが、SNSを利用して意思疎通を行っています。



医学部 1年生 水野 太陽

私たち一年生は、前期の授業のうち5月中旬から6月末の6週間、ほぼ全てがオンライン形式でした。入学したての私が最も支障を感じたのは、友人関係です。全体の3分の2が対面授業でしたので、新たな同期と接する機会はある程度ありましたが、講義の座席が一つおきで指定されていることや、友人と食事に行けないことなど、制限もありました。しかし、よい花は後からと言います。例年よりスロースタートではありますが、その分時間をかけて、よい友人関係を築いていきたいと思っています。

夏のオープンキャンパス

未だCOVID-19が猛威を振るう中ではありましたが、昨年同様に嚴重な感染対策を行い、令和3年8月7日に名古屋市立大学桜山キャンパスで「夏のオープンキャンパス」が開催されました。大幅に規模を縮小しての開催となりましたが、本学に興味を持っている高校生・既卒者の方々に、対面で名古屋市立大学医学部からのメッセージを発信できたことは非常に重要だったと考えています。最後に行われた質疑応答でも、参加者の方々から多くの質問を頂き、本学への関心の高さを肌で感じました。オープンキャンパスをきっかけに出願を決めた本学学生も多くいることから、どのような環境に置かれても将来の本学学生に直接メッセージを送ることができるこのような機会を今後もできる限り継続していくことは大切なことだと思います。

文責：副医学部長（入試担当） 加藤 洋一



最新医療講座オープンカレッジ

令和3年度第1期オープンカレッジ、「超高齢社会における医療を考えるー患者にやさしい医療とは？ー」を開講しました（6/4～7/30）。残念ながらコロナの影響で、録画による配信講座となりましたが、一般市民に向けて、各科医師8名がそれぞれの専門領域に関する最新の話題を織り交ぜながら、わかりやすく解説しました。ちなみに私は排尿の悩みについての話や、介護で有用な排泄ケア用品の話をしたところ、実際に使用してみたいなどの反響もありました。

文責：泌尿器科 窪田 泰江

ご寄附のお礼のご案内

当院における新型コロナウイルス感染症対策に対し、多くの企業、団体及び個人の皆さまより心温まるご寄附をいただきました。職員一同、心より感謝するとともに、お礼申し上げます。今後もより一層の感染症対策に取り組んでまいります。

病院長 間瀬 光人

令和2年9月～令和3年7月のご寄附一覧

いわま歯科クリニック 様	医療法人格医会 可世木婦人科ARTクリニック 様	アタム技研株式会社 様
エム・エフコンサルタント株式会社 様	横井定株式会社 様	ペーカリーレストランサンマルク 様
東洋羽毛東海販売株式会社 様	株式会社日本ビジネスデータープロセッシングセンター 様	東海興礼株式会社 様
株式会社キングダム 焼肉華火 錦店 様	なつめコーヒー 様	株式会社バッファロー 様
名古屋ショーケース株式会社 様	甘味処由太郎 様	株式会社青柳総本家 様
ワダコーヒー株式会社 様	カフェヴェリーヌ 様	日東工器株式会社 様
株式会社アメーバホールディングス 様	まぐろや石亭御器所店 様	株式会社UACJ 様
株式会社明治中部支社 様	株式会社愛知銀行 様	有楽製菓株式会社 様
フマキラー株式会社 様	名糖産業株式会社 様	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 様
株式会社比呂野 様	有限会社アルテックス 様	

上記のほか、3名の個人のみなさまよりいただいたご寄附など、令和2年9月～令和3年7月までに合計33件のご厚意をいただきました。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に「ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は1月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 医学・病院管理部
 経営課経営係 広報担当宛 E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使いません

広報誌：瑞 医(ずい)
 発行：〒467-8602
 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
 TEL(052)858-7114 FAX(052)851-4801

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2022年1月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐☐
**我こそは
 通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
 医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで